

# 先生がすすめる 1冊の本

from 安城高校定時制教員

臨時休業が長く続き、外出できず、家で過ごす時間が多くなっていることと思います。提示された課題をするのは当然ですが、このような時こそ、ぜひ読書をしてみましょう！

現在の状況が改善された後は、今までとは異なった社会構造が形成されていると思います。読書を通じて、様々な世界観に接し、多くの経験（疑似体験）をしてください。そのことが、将来にわたって、君たちが変化に対応できる資質を身につける基盤となってくると思います。読書にはそのような力が備わっています。

そこで、今回、「安城高校定時制教員からのおすすめの本」（15作品）を紹介します。是非、一度これらの本を手にとってみてください。校長先生からのおすすめの本もありますよ。

## ① 『心を整える』

長谷部誠 著（幻冬舎文庫）

- ・サッカー日本代表主将を務めた経験がある長谷部選手の作品。よく「心を鍛えなさい」と言われるが、心という形のないものをどのように鍛えるのか？それは、「心を整理すること」である。そのことを彼の経験を通して、分かりやすく伝えてくれている作品です。

## ② 『日本人の知らない日本語 1～4』

蛇蔵&海野凧子 著（KADOKAWA）

- ・活字を多くあるのはどうも苦手な人向け。私たちは身の回りにある物をすべて日本語で言い表せますか。また、日本語を正しく使っていますか。その点をユーモアある描写で綴っている作品です。

## ③ 『友だち幻想』

菅野仁 著（つくまプリマー新書）

- ・SNSに象徴されるように、人間関係が複雑化、簡素化？されている現代。そのような現代において、人とのかかわり方を教えてくれる作品です。

## ④ 『図書館戦争』

有川浩 著（角川文庫）

- ・君たちと同世代の高校3年生の娘に聞いたら、この本を推薦しました。映画化もされた作品です。

## ⑤ 『羊と鋼の森』

宮下奈都 著（文春文庫）

- ピアノ調律師の一人の青年の成長物語。青年の成長を描きながら、周囲の人々の心の描写が優しい表現で表現されている。読み進めていくと、心が洗われるというか、優しくなる感覚を覚えます。山崎賢人さん主演で映画化された作品です。

## ⑥ 『そして、バトンは渡された』

瀬尾まいこ 著（文藝春秋）

- 「主人公（優子）には、父親が3人、母親が2人いる」って、どういうことなの？と興味をもったのがきっかけで、読みはじめました。人を思いやる気持ちって、いろんな形があるけど、ほんとに大切だなと感じられるハートフルコメディな作品です。2019 本屋大賞にも選ばれました。

## ⑦ 『蜜蜂と遠雷』

恩田陸 著（幻冬舎）

- 第 156 回直木賞作品です。国際ピアノコンクールに挑む 4 人の若きピアニストたちの葛藤や成長を描いた青春群像小説に、心熱くさせられます。本当にコンサートホールで、音楽を聴いているような臨場感も是非味わってください。松岡茉優さんら主演で、映画化もされた作品です。

\*⑤『羊と鋼の森』を読んでからだと、また違った視点も楽しめますよ。

## ⑧ 『魂でもいいから、そばにいて 3・11 後の霊体験を聞く』

奥野修司 著（新潮社）

- 「今まで誰にも言えなかった。」喪った最愛の人との再会の告白。「亡き妻があらわれて語った（待っている）という言葉が唯一の生きる希望です」「兄の死亡届を書いているとき（ありがとう）と兄のメールが届いた。-----未曾有の大震災で愛する者が逝き、絶望の淵にあった人々の心を救ったのは、不思議でかけがえのない体験の数々だった。“奇跡”と“再生”をたどる、感涙必死のノンフィクション。家族の大切さを改めて考えさせられます。

## ⑨ 『英語の話し方』

國弘正雄 著（たちばな出版）

- 英語を話したいと思っている人は多いと思います。英語を話せるようになるための練習として一つは音読があります。実は音読にはものすごい効果があります。音読の効果について詳しく書かれています。皆さんもたくさん音読をして英語を使えるようになりましょう！

## ⑩ 『空白の5マイルー世界最大のツアンポー峡谷に挑む』

角幡 唯介 著（集英社文庫）

- チベットの奥地にこれまで数々の冒険家たちの挑戦を跳ね返し続けてきた伝説の谷、ツアンポー峡谷がありました。その人跡未踏の地の初踏査に、命の危険も顧みずに挑んだ単独行の記録です。単なる冒険記ではなく、峡谷に挑んだ冒険史や著者の冒険観・人生観まで含んだノンフィクション作品の傑作です。

## ⑪ 『機関銃の社会史』

ジョン＝エリス 著 越智 道雄 訳（平凡社）

- 歴史を変える発明品というものがありますが、本書が取り上げた「機関銃」もまたそのうちの一つです。機関銃の登場は、それ以前では考えられないような膨大な殺戮を可能にしたという点で以後の戦争の形を変えることになりました。では、そもそもこの兵器が必要とされた理由はなんだったのか、どのような意図で作り出され、それは何をもたらしたのか、歴史の暗面に焦点を当てた名著です。

## ⑫ 『手紙屋～僕の就職活動を変えた十通の手紙～』

喜多川 康 著（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

- 就職活動に悩む主人公が「手紙屋」に出会い、文通をすることによって成長していくストーリーです。働くことや、自分の人生に不安がある人、悩んでいる人に、ぜひ読んでみてほしい一冊です。

### ⑬ 『すべてがFになる THE PERFECT INSIDER』

森 博嗣 著（講談社文庫）

- ・愛知県を舞台に展開される推理ミステリー小説で、TVアニメにもなっています。コンピュータに残されたメッセージを手掛かりに、なぜ解きをしていく天才工学博士とお嬢様学生のやり取りがとても面白く、その分野に詳しい人なら「Fになる」の意味から推理することができると思います。本を読むのはちょっと・・・という人はぜひアニメから入ってみてください！

### ⑭ 『生物と無生物のあいだ』

福岡 伸一 著（講談社）

- ・「生きている」とはどういうことか。“新型コロナウイルス”の正体にもつながる分子生物学について書かれた本です。タイトルやこの内容を見て、「難しそう」と思った方もいるかもしれませんが、ノンフィクションでありながら、ストーリーのある小説のように読むことができます。

生物基礎を勉強した2～4年生なら、ぜひ「生物」と「ウイルス」の共通点や相違点に着目しながら読んでほしいです。

### ⑮ 『決してマネしないでください』

蛇蔵 著（講談社 モーニングKC）

- ・『日本人の知らない日本語』の著者による、コメディ要素の強いマンガです。食堂のおねえさんへの恋を成就させるべく、工科医大の男子学生が奇妙な実験をしながら科学にまつわる歴史上の人物をおもしろおかしく紹介していきます。天才と呼ばれた科学者たちの偉業とはかけ離れたその素顔や逸話に、思わず衝撃を受けました。NHKで実写化もされています。